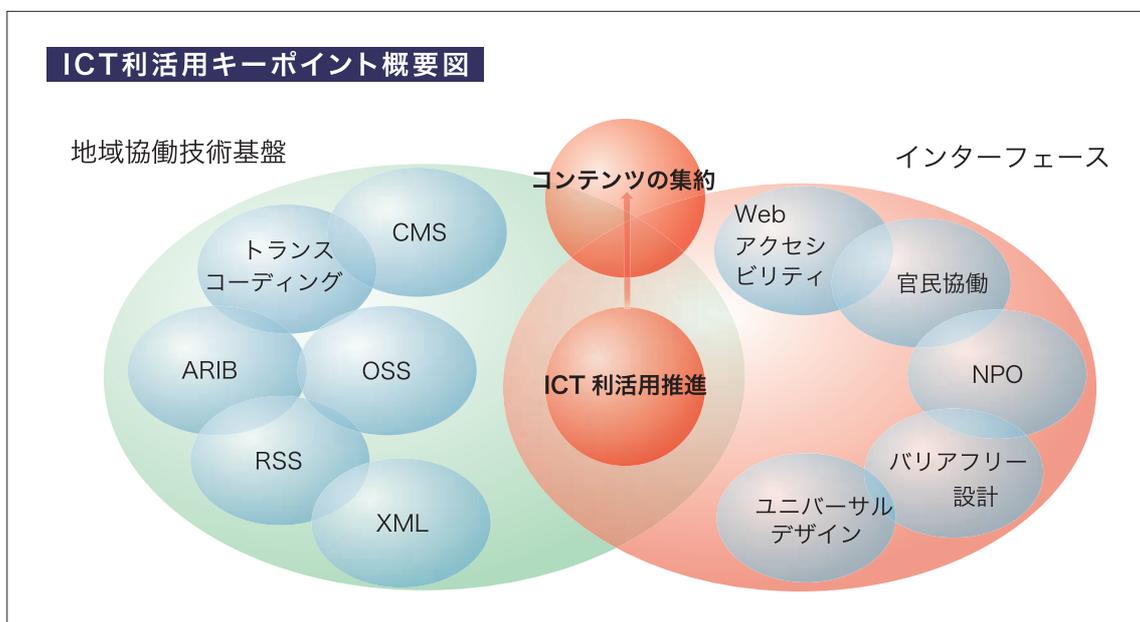


(6) 地域ICT利活用を推進させる要因

北陸地域および横須賀市の先進的な情報通信システムの現地調査を通じて、ICT利活用による豊かな地域社会を実現するための手法を鑑みると、大きく分けて、次の2点がキーポイントとなっていることがわかる。

- ①多様なシステム同士が共に連結し、コンテンツが自動的に生み出されていく仕組み（地域協働技術基盤）の構築。
- ②誰もが使いやすいICT利活用環境を実現するインターフェースの実装。



[ICT利活用キーポイント概要図]

この2つのキーポイントの構築と実装を北陸全体において進めることが、北陸全体のICT利活用を底上げすることにつながると考えられる。このキーポイントを下層から上層に向けた要素ごとにフェーズ分けすると次のようになる。

- ①インフラ／ハードウェア整備のフェーズ
- ②ミドルウェア調達のフェーズ
- ③ソフトウェア調達のフェーズ
- ④コンテンツ調達のフェーズ
- ⑤コンテンツ配信のフェーズ

① インフラおよびハードウェア整備に向けて

情報通信基盤の整備により、ブロードバンドネットワーク利用環境が整い、地上波デジタル放送の整備により放送のデジタル化が進んでいる。またケーブルテレビは、ICT利活用において通信と放送が融合したサービスを提供できるインフラである。北陸地域では、ケーブルテレビの普及が進展しており、今後もその普及促進と高度化が望まれる。

② ミドルウェア調達に向けて

基本システムであるOSやネットワークを構成するための基本ソフト（Webサーバやメールサーバ、ファイルサーバ等）などのミドルウェアに関しては、システムメンテナンスが可能な人員育成、セキュリティ対策・対応が望まれている。

今後は、OSSの利用等も視野に入れながら低コストにミドルウェア調達が可能な仕組みを構築し、メンテナンス性を更に向上させる必要が望まれる。

③ ソフトウェア調達に向けて

アプリケーションの調達は、単一のアプリケーション利用者が増加するほど低廉化が促進される。アプリケーションのネットワーク対応化が促進し、単一アプリケーション利用者数の増大が見込める中、北陸全体のアプリケーション構築コストを引き下げするために、アプリケーションのASP（Active Server Pages）化やWeb2.0化等を推進し、協働してこれを利用することが望まれる。

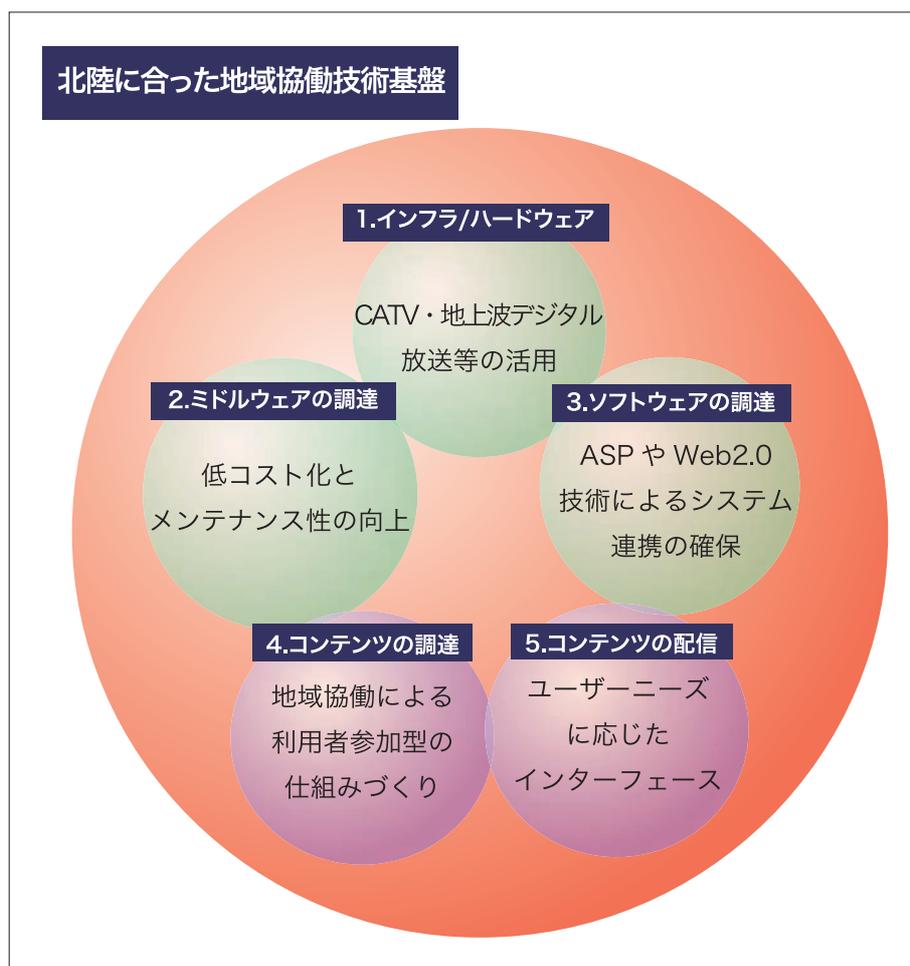
④ コンテンツ調達に向けて

利用者参加型の仕組みづくりは、良質なコンテンツを収集する上で効果的である。官民協働による利用者参加型のコンテンツ作りを推進し、生活に密着した地域コンテンツを幅広く提供することが望まれる。

⑤ コンテンツ配信に向けて

コンテンツ配信を行う基盤として、北陸は通信系の技術のみならずCATV網によるコミュニティ放送や、地上波デジタル放送を利活用することが可能である。こうした地域特性を生かし、通信と放送の優れたところを融合し、誰もが使いやすいインターフェースを実装したICT利活用環境を北陸全体に構築する必要がある。

[北陸に合った地域協働技術基盤 概念図]



以上、5つの要素に分けてキーポイントを分析してみたが、ICT利活用の仕組みづくりは総合的に行う必要がある。これらの要素分析をふまえて、北陸が全国に先駆けた模範となる仕組み「北陸に合った地域協働技術基盤」を構築し、豊かな地域社会を実現していくことが望まれる。

空白ページ